

「税金についての有難さを知った日」

学校法人 福岡文化学園 博多女子中学校

高橋 蓮

「こんなにも税金は、有難いものだったんだ。」

私はこう呟いた。私がこう呟いたとき、税金に対しての考えが一八〇度変わった。その経緯について話そう。

私は、「税金」という言葉を聞くと、「国民が国に納めなければならないお金のこと」というまるで社会の教科書に載っているような硬いイメージを持っていた。しかし、この考えは、私のとある出来事によって変わる事となった。

私は、今中学三年生である。私は、自閉スペクトラム症と注意欠陥・多動性障害があるため、毎月精神科の病院に小学一年生という幼い頃から通院していた。私の住んでいる福岡市では、現在中学生までは、医療診察が五百円で受けることができる。しかし、私が小学六年生の頃までは、医療診察が五百円で受けることができるのは、小学生までだった。私は、中学一年生のなりたての四月に、行きつけの精神科医に行った。診察をいつも通り受け、受付の人から呼ばれるのを病院のロビーで座って待っていた。ようやく、受付の人から、

「高橋さーん。」

と呼ばれ、席を立ち、付き添いの母と一緒に受付へ向かった。そして、受付の人が言った。「今回の診察料は、一万三千六百九十七円になります。」

という言葉が私の耳に強く響いた。私は、

「嘘でしょ？そんなはずがない。だって、今まで、五百円で診療を受けることができていたのに。何かの間違いじゃない？」

と心の中で呟き、今にも口に出そうだった声を静かにしまった。母の顔を見るといつも通りの表情で、診察料を支払うとすぐ病院を後にし、受付の人からもらった処方箋の紙を手を持ち、薬局へと向かった。薬局で薬をもらうと家へ帰宅した。家に帰った私は、すぐ母に、こう聞いた。

「医療費が一万円越えて、嘘でしょ？」

すると、母は、静かにこう答えた。

「本当に、今まで、有難かったよね。診察を五百円で受けることができて。これも全て、私や全国民の大人が頑張って汗水垂らして働いたお金、税金のおかげだったのよ。」

私は、ここで初めて、税金の有難みについて深く知ることができた。税金についての興味を持った私は、すぐ税金の使い道や役割についてインターネットで調べた。すると、道路や信号、公園や公立病院の整備などと沢山の情報が載っていた。この時、私は、税金によって、沢山支えられて来たのだと知った。

私は、医療費助成制度の対象年齢を過ぎたら、自立支援医療を受けようと思っている。本当に、税金は、私たちが知らないだけで、国の大きな役割を担っている。私は、今の過ごしている環境に日々感謝を忘れず、大人になって必ず国に税金を恩返ししたいと思う。